

26. 公共政策教育部

II	分析項目ごとの水準の判断	・ ・ ・ ・ ・	26- 2
	分析項目 V	進路・就職の状況	・ ・ ・ 26- 2

Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

修了生の就職後の評価であるが、本大学院が開催した講演会(平成21年11月26日)において、講演者の麻生福岡県知事より、職業人選抜修了者の復職後の評価は「高く評価できる」旨の話があった。

他方、一般選抜の修了生(1期生)で財務省に入省した者については、財務省の人事担当秘書課長より、「非常にしっかりと仕事をしてきていて、配属先の評判も非常に良い」とのことであり、本学と人事院との共催による「霞が関特別講演」(同年6月4日)でも、本大学院修了生の名前を挙げて活躍ぶりを紹介していた。同じく「霞ヶ関特別講演」(同年4月16日)に来た外務省の講師は、一般選抜の修了生(1期生)で外務省に入省した者について、講演の中でも名前を挙げ高い評価で紹介していた。

また、同年12月10日開催の公共政策大学院外部評価委員会でも、こうした評価への異論はなく、高い評価であった。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

最初の修了者並びに第2期生のうち、復職する社会人選抜合格者を除く学生(毎年約30名)の大半が、本大学院の掲げる目的「公共的な分野で活躍する高度専門職業人の養成」に適った分野へ進んでいることは、高い評価に値すると考える。

また、一般選抜修了者並びに職業人選抜修了者の就(復)職先からも修了生の能力に関して高い評価を得ており、これは本大学院の教育成果の結実であると考えられる。